神戸新聞 2024年12月11日 水曜日 面名 朝一 １４ 1ページ

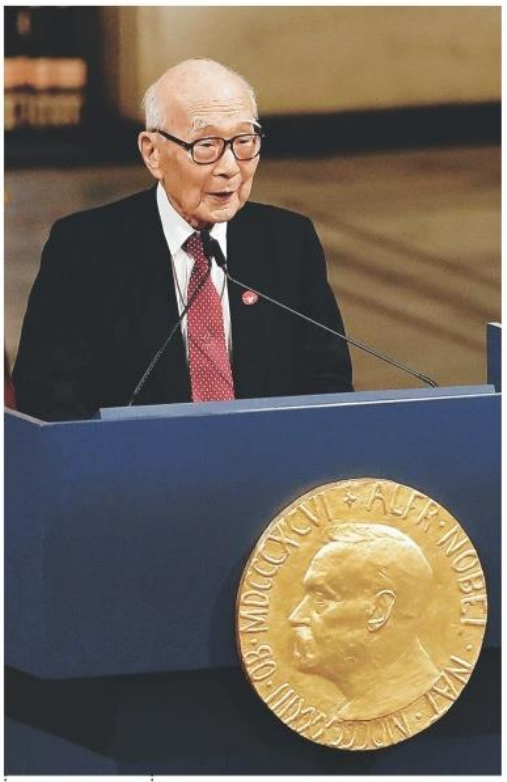
被団協にノーベル賞授与

田中熙巳代表委員が演説

核危機に限りない憤り

【オスロ共同】世界に被爆の実相を伝えてきた日本原水爆被害者団体協議会（被団協）に10日、ノーベル平和賞が授与された。被団協代表委員の田中熙巳（てるみ）さん(92)は受賞演説で、核使用が取り沙汰される現状に「限りない憤りを覚える」と危機感を示した。ノルウェーの首都オスロで開かれた授賞式でフリードネス・ノーベル賞委員長は「核兵器が二度と使われてはならない理由を、身をもって立証してきた」と評価し、被爆者の貢献に光を当てた。

（23面に演説全文、2、23、25面に関連記事）



ノーベル平和賞の授賞式で演説する被団協代表委員の田中熙巳さん＝10日、オスロ（共同）

代表委員の田中重光さん(84)、箕牧智之さん(82)も登壇。メダルと賞状を受け取った。日本の個人や団体への平和賞は非核三原則の表明などで1974年に受賞した[　]元首相以来50年ぶり2例目。

田中熙巳さんは演説で、ロシアによる核の威嚇に触れ、核使用は二度と許されないという「核のタブー」が「壊されようとしている」と批判。長崎原爆の投下時の悲惨な体験を証言し「戦争といえどもこんな殺し方をしてはいけない」と語りかけた。「核兵器は一発たりとも持ってはいけないというのが原爆被害者の心からの願い」だと述べ①核保有を前提とする核抑止論からの脱却を訴えた。

一方「原爆で亡くなった死者に対する償いは、全くしていないという事実を知ってもらいたい」と国家補償を拒む日本政府を非難した。「核をなくすためにどうしたらいいか、世界中の皆さんで話し合ってほしい」とし、次世代の核廃絶への取り組みに期待感を表明。核兵器禁止条約の普遍化へ各国に「原爆体験の証言の場」を設けるよう求め、「核も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張ろう」と呼びかけた。

被団協は56年に結成され「ふたたび被爆者をつくるな」を合言葉に核廃絶を訴えてきた。米ニューヨークの国連本部で82年、代表委員だった故山口仙二さんが被爆者代表として初演説。②「ノーモア・ヒバクシャ」と叫んだ。

ノーベル平和賞は、これまでも核廃絶に向けた取り組みを後押し。2009年に「核なき世界」を唱えたオバマ米大統領（当時）に、17年には核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に授与された。被団協への賞金は1100万スウェーデン㌍（約1億5千万円）。

日本原水爆被害者団体協議会（被団協） 米国が1945年8月、広島と長崎に投下した原爆の被害者による全国組織。米国による54年の太平洋・ビキニ環礁での水爆実験をきっかけに、56年8月に長崎市で開かれた第2回原水爆禁止世界大会で結成された。「ふたたび被爆者をつくるな」を合言葉に、核兵器廃絶と原爆被害への国家補償を訴えている。国内外で証言活動を続け、原爆による健康問題の相談事業も実施。被爆者の高齢化で活動休止や解散をした地方組織もある。（オスロ共同）

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

１ 空欄に入る名前を書きましょう。

２ 傍線部①「核抑止論」とは、核兵器の破壊力によって相手国を威嚇し、攻撃を思いとどまらせるという安全保障の考え方です。被団協は核抑止論に立たず、核兵器は一発も持ってはいけないと言っています。被団協が批准すべきと訴えている条約を本文中から抜き出しましょう。

NIEワークシート　小高～高校

３　傍線部②を日本語になおした言葉を、本文中から抜き出しましょう。

NIEワークシートのこたえ（2024年12月12日公開）

◆ワークシート「ノーベル賞被団協スピーチ(社会)」

2024.12.11日付　朝刊　1面　解答

1　佐藤栄作

2　核兵器禁止条約

3　ふたたび被爆者をつくるな